

初夏園中即事

菊池三溪

梅時雨も喜ぶは只蝸牛

芭蕉に上らんと欲して自由ならず

高知元身を置地非

家移して徐に下る竹籬の頭

【作者】菊池三溪（一八一九〜一八九一年）（文政二年〜明治二十四年）幕末〜明治時代の漢学者。紀伊（きい）（和歌山県）の人。安積良斎（あさか）（ごんさい）にまなぶ。江戸の和歌山藩校明教館の教授をへて幕府儒官となり將軍徳川家茂（いえもち）につかえる。明治のはじめ「大日本野史」の校訂にあたった。明治二十四年十月十七日死去。七十二歳。名は純。字（あざな）は子頭。別号に晴雪楼主人。著作に「東京写真鏡」「本朝虞初新誌」など。

【通釈】梅雨時に雨を喜ぶのは蝸牛だけ、芭蕉の葉に上ろうとするが思うようにゆかない。高い處はもともと身を置くのによい場所ではないので、ゆつくりと家を竹の籬のほとりに移している。